

ふるさとを語る

日本の縮図と言われる兵庫県は、
多彩な人材を輩出しています。
今回は、芸人のインディアンズ
田渕 章裕さんにお話を伺いました。

芸人／たつのふるさと親善大使

た

ぶち

あき

ひろ

田渕 章裕さん



プロフィール

1985年、たつの市生まれ
兵庫県立龍野高校、関西大学経済学部卒業
高校時代はソフトボール部に所属し、国体に出場
2008年、NSC大阪校入学、31期生
2010年、インディアンズを結成
2015・2018年、NHK上方漫才コンテスト優秀賞
2019・2020・2021年、M-1グランプリファイナリスト
2022年、たつのふるさと親善大使に就任

■子どもの頃の思い出

実家は素麺製造業。両親が共働きのため、夏休みは毎日、おばあちゃんが素麺とおかずを作ってくれました。家を出て初めて、実家の素麺がこんなに美味しいものだったんだと気付かされました。

家族で、姫路セントラルパークによく出かけました。親父は思い切ったことをしてくれることが多く、小学生の頃、突然、沖縄旅行へ連れて行ってくれたり。フランス料理や、親父がよく通っている焼き鳥屋さんへ食べに行ったりもしました。外食にも色々な所が

ある、店によってこんなにお客さんの感じが違うなど、多くの世界を見せてくれました。僕が親になったらこんな子育てをしたいなとそう思っています。

■芸人をめざして

中学生のとき、友だちがお笑い好きということもあり、「昨日のお笑い番組見た？」みたいなことを言って盛り上がりしていました。その頃からお笑いに興味を持ち始めていました。いまだに仲のいい友だちと会っては、お笑いの話をしていますね。

高校を卒業したら吉本興業の養成所（NSC）に入ろうと思っていたのですが、親父から「大学は、めっちゃおもしろいから」と勧められて。「そんなにおもしろいやったら、行ってみようか」と大学へ入学。それでも、卒業する頃になっても気持ちが変わらず、NSCへ入ることにしました。就職活動の時期に友だちから「お前就活は？」と聞かれて、「俺は芸人になるねん」と答えると、みんな度肝を抜かれましたね。

■お笑いの世界に入って

NSCに入って数ヶ月は、みんな格好をつけて人のネタを見ても全然笑わないのです。自分も無理して笑わずにいるのがしんどかったですね。

あるとき、他のクラスのネタを初めて見ることがあり、その中かなり面白い奴らがいて、つい我慢できず爆笑してしまったのです。そのとき「人のネタが面白かったら笑う方がいいな」と思うようになり、それから、そういった仲間が良くなって、毎日が楽しくなりました。今でも仲がいいんです。

僕は、性格的に物事を継続するのが



©吉本興業

■M-1グランプリへの挑戦

昔は、M-1は先輩の大会という思いがあつて、自分たちが決勝で優勝なんて夢の話だと思つていました。そうしていると先輩が先に優勝して、それからM-1での優勝をリアルに考えるようになりました。

初めてM-1の決勝に出たときは、お笑い人生でこれ以上ないほど嬉しかったですね。ただ、次の年に敗者復活戦を経由して決勝に出たときは、さらに嬉しくて、さらにその次の年にストリートで決勝に行けたときは、もっと嬉しかったです。嬉しいことが、更新していく感じで、「この先もつとあるぞ」と思っています。

■これからの目標

M-1の会場でも、初めて見る人のネタには大爆笑してしまいますね。緊張感のない姿でテレビに映ってしまうのですが、どうしても笑うのを堪えきれないのです。

あと、胸のコサージュはおかんが不定期にダンボールで送ってくれて、いつも伝票には「ひまわり」とだけ書いてあります。二輪や三輪の花のときもあつて、一つも同じ形がないのが、不思議なんです。

今は、少し仕事をいただけるようになって、仕事の種類が増えてきた分、ネタを作る時間や、劇場に出る時間を削っている状況があります。でも、そこは言い訳にできないので、この状況でM-1の優勝ができれば一番嬉しいと思つています。やはりM-1で優勝したいというのが、今の

一番の目標です。

M-1での優勝がかなえば、仕事の幅も広がり、地元に戻元できることも増えるのかなと思つています。

■ふるさとへの思い、そして親善大使に就任して

高校時代は、民家が建ち並んでいる中を自転車で通学していました。たつの市には、小京都と呼ばれる古い街並みが残されていて、現在、その一角に妹が素麺も使っているイタリアンのお店「いちわ」を出しています。街並みや雰囲気がとても良く、ぜひ見に来て欲しいですね。

地元の祭りにも、よく参加しました。自分たちで作った筏で掛保川という大きな川を下る大会に何度も参加しました。花火大会や盆踊りも、大好きでした。これから、花火大会とか祭りがね。これからも、



©たつの市役所

は続けて欲しいですね。

とにかく、地元が好きなんです。ただ、地元に戻ったとき、人が減りすぎていると感じることがあります。地元の魅力を高めるなど、人が出て行かないように何かできないかということが、一番気になってくることです。

この前、凱旋ライブをやらせていただきましたが、これから不定期でもできればいいなと思つています。そういつたことがきっかけで、地元へ帰ってくる人が増えると嬉しいですね。

■県人会の皆さまへ

兵庫県は都会もありますが、出身者は、穏やかな方が多いような気がしています。それが上京したことで、せかせかしたり、焦ってイライラして、穏やかな気持ちを忘れてしまうと寂しいなと思つています。地元で過ごした頃の様子を残しつつ、「たまには、地元へ帰ろう」ということを伝えたいですね。

僕は、地元へ帰ったら、本当に油断して眠くなるのです。新幹線が地元へ近づいてくると、眠くなり、「今、寝たら寝過ぎしてしまう。起きておかない」となります。地元というのは、とても落ち着く所なのです。